

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定 **実施結果**)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月9日実施)	総合評価 (3月12日)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①多様な進路選択に対応できる教育課程を編成し、生徒の希望に添えられるように学習の機会を提供する。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。</p> <p>③学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>①授業力を向上させ、生徒が希望する進路が実現できるよう指導する。</p> <p>②生徒の学習意欲を引き出すため、ICTを活用した授業を展開する。</p> <p>③ポストコロナ時代に合わせた学校行事や生徒会活動を開催し、生徒が充足感を得られるような主体的な活動を目指す。</p>	<p>①テーマを設定した研究授業等で各教科の取組を集約し、職員全体に周知する。</p> <p>②学習コンテンツを活用した教員向けの研修会を年3回以上実施する。</p> <p>③コロナ禍で新たに習得した知識・技術を活かしつつ、生徒会本部や各種委員会と協力し、生徒と丁寧な意見交換をしながら、生徒が主体的に運営・活動できるように支援する。</p>	<p>①生徒による授業評価、研究授業の反省</p> <p>②生徒による授業評価、研究授業の反省</p> <p>③各行事における生徒及び教員へのアンケートを取り、8割以上の満足度を得る。</p>	<p>①「メタ認知能力の育成」をテーマとして研究授業を行い、職員全体の授業力向上に寄与した。</p> <p>②端末を利用した研修会を3回実施、また生徒による授業評価の振り返りを各教科で行い、反省を職員全体で共有し授業改善に役立った。</p> <p>③体育祭や文化祭等の行事において、軍手の着用やキャッシュレス決済等のコロナ禍で新たに習得した技術を活かしつつ、生徒の意見を取り入れながら、生徒が主体となって運営し、それを支援することができた。</p>	<p>①「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、何を評価材料とし評価基準をどうするか考え、指導と評価の一体化を図る必要がある。</p> <p>②昨年度と比較し職員全体の授業研究会を3回に増やした。引き続き職員全体に各教科での取り組みを周知できる機会を設けていく。</p> <p>③文化祭の満足度は9割を超えたが、体育祭は8割に届かなかった。今年度の取組を基本として、生徒に意見に耳を傾けつつ、生徒も教員も楽しめる行事の運営が必要である。</p>	<p>①「メタ認知能力の育成」をテーマに掲げ、先生方の取組に対して生徒評価アンケートからは高い数値が読み取れる。とくに昨年度との比較では大きく上回る結果が明らかである。</p> <p>②ICT機器利活用は、中学校でも喫緊の取組と結果が求められており、今年度2回のアンケート結果からは多くの教科が2回目の方が高い数値となっている。但し、次年度以降の経年での結果・実績に注視する必要がある。</p> <p>③昨年までと比べて、生徒がいよいよと体育祭や文化祭等の行事に参加している様子を感じる。今後も、生徒の意見に丁寧に向き合い、生徒やPTAと協力しながら行事・生徒会活動の充実を図ってほしい。</p>	<p>①「第2回生徒による授業評価」は第1回の評価を各教科上回り、授業改善の成果が出ている。校内授業研究期間に授業見学をしなかった教員が27%いた。参加率を上げることが課題である。</p> <p>②ロイロノート校内研修会など端末を利用した研修会を開催し、次年度につなげる研修会となった。</p> <p>③コロナ禍の制限がなくなり、ほとんどの行事が制限なく開催できた。生徒の満足度を上げる方策を考えることが課題である。</p>	<p>①授業参観シーターの提出を必ず求める等、全員が他の教員の授業を見学するよう工夫する。</p> <p>②来年度から学年費で端末用学習ソフトを購入するのでソフトの活用研修を充実させる。</p> <p>③行事の満足度を上げるためにアンケート結果を参考に行事の在り方を検討する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①礼儀正しさを意識して、安心・安全な学校生活を送れるよう支援するとともに、個に応じた教育相談体制の充実を図る。</p> <p>②自分自身に目を向け、学校行事や部活動を通して、奉仕や協調の精神の涵養を図る。</p>	<p>①基本的な社会規範の定着を目指し、学校全体で継続的に指導を行う。</p> <p>①こころのサポート事業や相談箱の利用を通じて生徒が気軽に相談ができる体制作りを進める。</p> <p>②ポストコロナ時代に合わせた部活動等の運営を行い、生徒自身が成長を感じられるような主体的な活動を目指す。</p>	<p>①掲示物やHRなどで、日常生活の注意点を周知し、頭髪や服装なども定期的な指導を継続する。</p> <p>①各学年に教育相談係を置き、生徒へ周知するとともに、学年会での情報交換を密に行う。</p> <p>①学年会からの情報をもとに、必要に応じて速やかにケース会議に繋ぐ体制を築く。</p> <p>②積極的な部活動加入や行事への参加を促すとともに、顧問・教員と生徒がともに協同して取り組めるような支援体制を整える。</p>	<p>①指導対象者が減少したか。</p> <p>①生徒からの相談件数の推移を把握するとともに、適切なタイミングでケース会議が開けたか。</p> <p>②一年生の部活加入率70% (昨年は約63%) を目標とする。地域との連携行事 (短歌交流や音楽交流) を実施できたか。</p>	<p>①服装面では衣替え後などにネクタイの締め忘れ、バッジをしない生徒が見受けられた。概ね規定は守られている状況である。</p> <p>①コア会議の対象生徒2名、計3回行った。</p> <p>①指導件数は例年と変化は見られない。</p> <p>②一年生の部活加入率は70.8%であり、多くの生徒が部活動に加入し、充実した部活動を実施できた。短歌交流や音楽交流等の地域との連携行事も実施できた。</p>	<p>①日常的な指導は浸透しつつあるので、今後も継続的に指導をつづけたい。</p> <p>①本校では問題行動をとる生徒よりも、精神的な悩みを抱えた生徒が見受けられるので、SCやSSWだけでなく、分教室などの近隣外部機関との協力を構築する等の方法が考えられる。</p> <p>②3年間を見据えた部活動や行事の在り方を考える必要があり、部活動を引退した3年生等にも適宜アンケートを実施していきたい。地域とのつながりを意識し、地域からも応援される学校を目指していく必要がある。</p>	<p>①掲示物などは見やすさ、分かりやすさを追求し、大切な掲示物の周辺には他の掲示物を貼らないなどのちょっとした工夫でさらに効果があがるのではないかと。</p> <p>①学校の日常は様々な指導を継続することによって維持される。今後も継続的な指導が必要である。</p> <p>①岸根高校と分教室教員との補完的な交流が行われることが望ましい。</p> <p>②学校行事や部活動に積極的に取り組んでいる生徒も多く今後も充実を図ってほしい。地域やPTAとも連携を取りながら、応援される学校になりましょう。</p>	<p>①概ね服装等の規定は守られている状況である。</p> <p>①「第2回学校生活に関するアンケート結果」でいじめを受けたことのある生徒が0人ではなかった。</p> <p>①SC、SSWの全校配置で教育相談の充実が図られたが、サポートドッグにより精神的な悩みを抱えた生徒に対するケアの仕方が課題である。</p> <p>②関東大会等に参加するなど充実した活動ができている部がある一方で、途中で退部してしまう生徒も少なからずいる。生徒の求めているものを的確に拾い上げることが課題である。</p>	<p>①「第2回学校生活に関するアンケート結果」でいじめを受けたことのある生徒がいたことについては、申し出たことを評価し、今後の対策を検討する。</p> <p>①こころサポート事業の活用を拡大する。</p> <p>②部活動でうまくいかない生徒の心のケアをし、部活動でお互いのことを大事にすることを学ばせる。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策 定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月9日実施)	総合評価(3月12日)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①自己理解を深め、進路意識を向上させて、生徒一人ひとりが自らの進路希望を実現できる進路指導の充実を図る。	①外部の教育力を活用した授業や取り組みを充実させ、社会とのつながりのなかで自己理解を高めさせ、納得のいく進路実現を果たせるよう支援する。 ②キャリア支援の取り組みについて教員の理解度を高め、全体で生徒のキャリア支援にあたる意識を築く。	①総合的な探究の時間に外部講師等を招いて進路説明会や職業ガイダンスなどの進路支援とキャリア形成支援に関する講演会等をできるだけ多く実施する。 ①既存の高大連携の取り組み強化と新設置予定の長期休業中の特別講座を実施する。 ①②総合的な探究の時間におけるアンケートを各学年で実施し、目的や内容に対する生徒や担当教員の意識を高める。 ②学校ホームページに取組を随時更新していく。 ②キャリア支援や進路指導に関する取り組みや最新の情報に関する意識アップをはかるため、定期的に資料を配付する。	①ガイダンスや学校外と生徒が関わるキャリア的な取組を10回以上実施できたか。 ①大学への進学数を5%以上増加できたか。 ①高大連携の取り組みを計画実施できたか。長期休業中の特別講座を計画実施できたか。 ①②総合的な探究の時間におけるアンケート結果を目標達成に向け、各学年で上昇させることができたか。 ②学校ホームページを年間12回以上更新し、キャリアの情報発信を行えたか。 ②キャリア、進路に関する資料を、年間10回以上配布できたか。	①ガイダンス・学校外教育力活用機会を1学年4回、2学年3回、3学年7回実施しキャリア育成を行なった。 長期休業中の講座に「キャリア育成型」の枠を設け、5講座を開講した。その中に神奈川大学との高大連携活動を盛り込んだ講座も開講した。 ②学校ホームページを7回更新すると共に教職員に対し、キャリア・進路に関する資料を現在までに10回配付し、学校内外に対しキャリア支援の取組みについて理解を築く活動を行なった。また、総合的な探究の時間において生徒の授業アンケートを実施し、多くの項目で取組み後の数値を向上させることができたことで、生徒の学びに向う姿勢の向上を確認した。	①外部関係者との密な教育活動に向け、年間キャリアスケジュールを他グループと協議し前年度内に固める必要がある。 ①②長期休業中講座「キャリア育成型」実施後アンケート結果を受け、より良い形での運営について検討する。また、進路実績を過年度と比較し、総合的な探究の時間と進路支援の取組みを見直していく。 ②引き続きキャリア支援・進路支援に対する情報発信を続けると共にアンケートの計画的な実施を通して、キャリア支援の質を高められるよう努める。	①全般的に、生徒の自己理解や進路の目的・内容に対する意識と教員のキャリア支援にあたる意識の双方をバランスよく高めていこうとする取り組み姿勢は評価できる。 ②高大連携活動を盛り込んだ講座の開講は良い取り組みだと思う。 ②年間に学校ホームページを7回更新し、教職員に資料を10回配付している点は、全教職員をはじめ学校内外に対してキャリア支援の取り組みについての理解を築くという観点から評価できる。	①総合的な探究の時間の改革で、生徒のプレゼンテーション能力を高めることができ、総合型選抜での入試で成果をあげた。 ①サークルアクション等で地元企業と連携を深めることができたが、もっと計画的に早めの準備が必要である。 ②職員向けにキャリア支援・進路支援に対する情報発信を続ける必要がある。	①外部との連携については、早めに計画し、保護者に趣旨を周知し、生徒への事前指導を充実させる。 ②アンケートの計画的な実施を通して、キャリア支援の質を高められるよう努める。
4	地域等との協働	①交流や協働活動を通して、生徒の社会性の育成を図るため、これまでの地域との連携を継続する。 ②学校運営協議会を中心とした、地域に開かれた学校づくりに取り組む。	①「4年間の集大成」という意識で、コロナ後の交流活動・協働に取組み、地域と共にある学校づくりをめざす。 ②学校運営協議会等により、外部からの意見・異なる立場からの視点を知る機会を設ける。	①全生徒が、少なくとも1年に1回は、交流・協働を行うように働きかける。他者のために活動する喜び・社会の一員としての自分に気づかせる。 ②令和5年度中に、3回の学校運営協議会を対面により開催する。	①生徒が、一人1回以上、交流または協働に参加できるよう働きかけることができたか。 生徒に「気づき」のある活動をさせることができたか。 ②学校運営協議会を開催し、意見を広く聴取することができたか。	①城郷・小机地域ケアプラザの様々なプロジェクト、篠原西小学校との短歌交流・クラブ交流、文化祭での地域主催の「すこやか祭り」や、「障害者オリンピック」の補助活動など、全校生徒が何らかの形で交流・協働に関わることができた。 ②学校運営委員会を対面で実施し、意見を聴取する機会を設けることができた。	①コロナ禍での交流活動中断を経た後、継続的に意義ある活動を行うために、本校職員内及び他教育機関・団体等の方々との意思疎通や共通理解をどのように進めていこうかが課題である。 ②引き続き、外部の視点からの意見を広く聴取するよう努める。	①児童生徒間の交流活動については、短歌交流等これまで継続してきたこと以外でも、できることから再開して取り組んだ。次年度も引き続き工夫できる点を模索しながら実施できるとよい。 ②学校運営協議会だけでなく、担当職員間でも打合わせや意見交換を行い、それぞれの事情や環境を知る手がかりとなった。	①コロナ禍の制限がなくなり、交流や協働活動を通して、生徒の社会性の育成を図ることができた。 ①隣接する小学校とのクラブ交流が復活したが、方策については検討する必要がある。 ②学校運営協議会だけでなく、担当者間での意見交換も必要。	①他校種を知る研修を継続して行うなど意思疎通や共通理解を深めていく。 ②地域の交流については職員間の連携が重要で、校種の違う職員同士が交流することで職員の成長につながる。
5	学校管理 学校運営	①環境に配慮した設備・備品等の整備・活用に取り組む。 ②防災意識の向上を図る。 ③人権についての知識を深め人権尊重精神の涵養を進める。	①教員の働き方改革を推進するため、教育環境の向上に努めるとともに、ICT機器の管理や備品等の整備・活用に取り組む。 ②防災意識の向上を図るために防災教育方法の再構築を図る。 ③人権について、知識と理解を深める。	①職員による円滑な業務を支援するため、ICT機器の管理や設備・備品等の整備・活用を推進する。 ②地域防災の意識を向上させるため、地域と連携した防災活動や、効果的な防災訓練等を実施する。 ③適切な研修テーマを設定し、研修計画を実施する。	①ICT機器の管理や設備・備品等の整備・活用を推進できたか。 ②防災避難訓練(防災教室を含む)を2回実施できたか。地域と連携した防災活動を実施できたか。 ③研修後のアンケート結果	①ICT機器や清掃用具等の整備を進めることができた。課題であったアクセスポイント設置は完了した。 ②防災避難訓練の第1回は地震を想定し避難経路確認を目的に実施、第2回は火災を想定した訓練を実施した。直前で出火元知らせ、点呼は担任以外で行う等、より臨機応変な対応を求められる訓練を実施した。いずれも教材やアンケートではICTを活用した。 ③辻健一郎氏による研修では、様々な特性を持つ生徒に対する適切な接し方を学ぶことができた。	①関係部署との連携を図り、設備・備品等の整備を推進していきたい。 ②地域防災の意識をより向上させるため、地域と連携した防災活動や効果的な防災教育について検討する。 ③適切な研修テーマの設定と、よりよい研修計画を検討する。	①②③(共通)様々なリスク管理を考えていかねばならない中で、地域との関係を保ちつつ社会環境に配慮した取り組み等であり、学校管理上の必要なことを進められていると感じる。担当のリーダーを中心に、個々の職員にもその役割や責任ある行動が感じられることはとても喜ばしいことである。この大人の意識・配慮は、言葉では伝わらない良い空気を肌で感じさせることにつながる要素となるであろう。次期に向けて、更なる期待が持てた。	①ICT機器や清掃用具等の整備を進めるとともに課題であったアクセスポイント設置は完了し、生徒が学習する環境を整えることができた。 ②近隣の保育園の避難訓練に本校敷地を提供したが、避難訓練の日程が合わなかった。 ③人権研修については、部活動の指導の仕方や体罰防止研修としての効果もあった。	①生徒だけでなく、職員をとりまく環境整備についても整えていき、働き方改革につなげていく。 ②防災訓練については、近隣の日程を調整し、協働して防災教育に取り組んでいく。 ③人権研修について適切な研修テーマの設定と、研修計画を検討する。